

国際交流事後活動ニュース

# MACROCOSM



## Contents

- 第32回「東南アジア青年の船」事業 …………… 2
- 「日本・中国青年親善交流」事業(招へい) …… 6
- 「日本・韓国青年親善交流」事業(招へい) …… 7
- 日本青年国際交流機構第21回全国大会 …… 8
- 日本青年国際交流機構第42回全国推進会議 …… 10
- ターニングポイント …… 12
- 第1回「青年の船」事業記念同窓会 …… 15
- スマトラ島沖地震 津波被災地タイからの報告 …… 16
- 第8回「世界青年の船」事業10周年記念同窓会 …… 18

マクロコズム  
2006.3 vol.69

(財) 青少年国際交流推進センター

## 第32回「東南アジア青年の船」事業

### The 32<sup>nd</sup> Ship for Southeast Asian Youth Program

「東南アジア青年の船」事業は、昭和49年のインドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール及びタイ各国と日本との首脳会談による共同声明に基づき、アセアン諸国と日本による青年国際交流の共同事業として発足したものです。

第32回を迎えた今回は、前述のアセアン5か国に、ブルネイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー及びベトナムを加えたアセアン10か国と日本からの青年約330名が参加して実施されました。今回の事業から、船内活動の中心的なプログラムとして、「グループ・ディスカッション」を取り入れました。「青年の社会参加と役割」を共通テーマに、8つの分野別のグループに分かれて、ディスカッションを行いました。

#### ◆◆ 航路及び寄港地 ◆◆

10/31	東京（日本） 出航
11/8～ 11/13	ポートクラン（マレーシア）
11/16～11/20	バンコク（タイ）
11/23～11/26	ホーチミン（ベトナム）
11/28～12/1	ムアラ（ブルネイ）
12/4～ 12/7	マニラ（フィリピン）
12/12～12/20	日本国内活動
12/13	課題別視察
12/14	小学校訪問、秋篠宮同妃両殿下御引見
12/15～12/18	地方プログラム（日本・アセアン青年交流プログラム、ホームステイ） （茨城県、新潟県、山梨県、愛知県、奈良県、島根県、長崎県、大分県、沖縄県、大阪市、北九州市）
12/19	内閣総理大臣表敬、評価会、解散式、解散パーティー
12/20	外国青年離日



#### ◆◆ 船内活動 ◆◆



朝のエクササイズ



クラブ活動でタイのムエタイを体験



ベトナムの文化紹介（展示）



日本の文化紹介（パフォーマンス）

◆◆ 寄港地活動 ◆◆



ベトナムでホーチミン市人民委員会を  
表敬訪問する各国ナショナル・リーダー



マレーシアのホームステイで、  
ホストファミリーと地元の料理を  
満喫する参加青年



ブルネイ・ダルサラームの課題別視察で訪問  
したラジオ局で番組に出演する参加青年



2泊3日のホームステイの後、  
本当の家族のように仲良くなった  
ホストシスターと（マレーシア）



日本の地方プログラムで、初めての雪体験（新潟県）



出港時、いつまでもホストファミリーとの  
別れを惜しむ（フィリピン）



フィリピン出港式での日本参加青年

## ◆◆ グループ・ディスカッション ◆◆

今回から船内活動の中心的なプログラムとして取り入れられた「グループ・ディスカッション」では、共通テーマ「青年の社会参加と役割」のもとに以下の8つの分野別グループ・テーマをおき、各参加青年はそれぞれの関心の高いテーマを選んで、各分野における青年が果たすべき社会的役割についてディスカッションを行いました。

「青年の社会参加と役割」をテーマとしたアドバイザーによる基調講演を受けた後、各グループに分かれ、それぞれファシリテーター1名と、参加青年の代表が中心となって、ディスカッションを進めていきました。このファシリテーターは、今回初めてアセアン10か国と日本から公募し、「東南アジア青年の船」事業や「世界青年の船」事業の既参加青年を中心に8名が採用されました。

また、船内でのグループ・ディスカッションに加えて、タイにおける寄港地活動では、それぞれの分野に関連した施設、学校等を訪問し、タイにおける実状を認識することにより、さらに深いグループ・ディスカッションにつなげました。



アドバイザー及びファシリテーター（カンボジア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイから各1名と、日本から3名、計8名）

### 【共通テーマ：青年の社会参加と役割】

各グループ・テーマの視点

- 1 環境：環境に配慮した持続可能な社会のあり方について
- 2 インフォメーション：情報格差をつなくIT技術やメディアの役割について
- 3 異文化理解：草の根レベルの異文化理解について
- 4 国際関係：アセアンと日本の今後の連携のあり方について
- 5 学校教育：国際社会で活躍する人材育成を目指した学校教育のあり方について
- 6 伝統文化：現代社会における伝統文化の意味と、それをいかに次世代に伝えていくかについて
- 7 ボランティア：自ら積極的に参加していくための、ボランティア活動のあり方について
- 8 地域における青少年健全育成活動：国際理解・国際協力のための、地域における青少年健全育成活動について

## ◆◆ 船内でのディスカッション ◆◆



真剣に話し合う参加青年  
（国際関係グループ）



アイデアをシェアしあう参加青年  
（伝統文化グループ）



ディスカッションの成果を  
発表する参加青年  
（環境グループ）

ボランティアグループ ファシリテーター  
第3回「世界青年の船」事業参加青年 小林 真由美

ボランティアグループの参加青年37人は、初心者からプロジェクトのリーダー的な存在まで幅広く、活動分野は青少年活動、災害支援、医療、国際交流など多岐にわたっていた。まとめはボランティア決意表明。ボランティアをやめようと思っていた参加青年がディスカッションを深めるにつれ、やはり続けようと思いとどまったり、すでに活動をしている参加青年が新しいグループを作ってさらに活発に活動をしたいと宣言してくれたりする姿を見て、モチベーションをあげる効果が出てよかったと思った。

プログラム後の現在、ディスカッショングループメンバーのメーリングリストを立ち上げ、活発なやりとりがある。「約束したボランティア活動の新しいホームページを立ち上げた」とか、「国内で災害があったので、ボランティアに行こうと思っている」といった内容のメールもあり、引き続きグループのテーマを共有しようとしている。

今後は「東南アジア青年の船」や「世界青年の船」の情報を共有し、互いに事後活動の機会を提供し合い、活動していきたいと思う。

◆◆ タイにおける寄港地活動 ◆◆



バンコク大学を訪問し、学生や研究者と意見交換をする参加青年（インフォメーショングループ）



バンコクの多文化が密集するコミュニティにある中国寺院を訪問する参加青年（異文化理解グループ）



バンコク最大のサトリウィッタヤ第2中学校を訪問し、生徒と交流する参加青年（学校教育グループ）



バンコク、クロントイ・スラムの生活改善を目指すドゥアン・プラティープ財団を訪問し、子どもたちと交流するファシリテーター（地域における青少年健全育成活動グループ）

## 第27回「日本・中国青年親善交流」事業（招へい）

第27回「日本・中国青年親善交流」事業  
（中国青年招へい）

平成17年11月9日から11月27日まで、中国青年代表団の日本国内プログラムを東京都、京都府、和歌山県、山形県で行いました。訪問府・県の担当者やIYEOの皆さんの多くの参加と協力を得てプログラムを実施することができました。今年で27回目を迎えた事業ですが、例年参加者から要望の多い、政界、経済界の方との懇談や日本青年とのディスカッション、高等教育施設や中国との関連の深い企業の見学を行いました。和歌山県でのホームステイでは、家族の方に温かく迎えていただき、言葉の壁を越えて交流ができました。



歓迎会 内閣府山口副大臣と  
中国青年代表団夏団長



林方正参議院議員  
（日中友好議連事務局長）  
を囲んで



経済同友会北城格太郎代表幹事と懇談



ホストファミリーとの交流会で団員の京劇俳優と  
記念撮影するホストファミリー（和歌山県）



講演後、  
中国青年代表団夏団長から  
記念品を受け取る  
小口彦太郎稲田大学副総長



友禅染体験（京都府）



交流会アイスカッション  
青少年育成グループ



「でん六」工場視察（山形県）



## 日韓で描く近未来型集合住宅



平成17年度「日本・韓国青年親善交流」事業（第19回）参加青年

## 齋藤健太

「日韓青年が協力してひとつの大きな絵画を描きたいんです!!」

これは私が平成17年度内閣府青年国際交流事業の選考面接で熱く語った言葉です。大学で国際文化学を専攻している私にとって、国際交流を何によって実践するかという問いは日常的な課題であり、国際交流を継続することが私の人生に首尾一貫した姿勢をもたらすと確信しています。

私は国際交流をアートの舞台であると考えています。自分が信じるアートを自己完結で終わらせることなく世界に発信するにはどうしたらいいのか考えた末にたどりついた結論が、国際交流の一環としてアートを実践することでした。

平成17年11月14日～16日、独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターにて「日韓青年親善交流のつどい」が開催されました。この図案(写真1)は16日の共同制作活動で作られたもので、韓国語と日本語を融合させてデザインしました。画面の左から右へ우리마루(ウリマル)というハン글文字を配置し、上から下には私たち日本青年団が掲げた『相思相愛ウリミレ～私たちの未来～』という意味を込めた未来を表す形を描きました。

彼らは「マル」という言葉に「人々が集まる場所」という意味を込めたと語っていたので、私たちが文化の差異を超

えて気ままに集える家の見取り図を日本独自の「ちぎり絵」というかたちで日韓青年と一緒に製作すれば、自分たちはまるで一つの家族のように心置きなく付き合える間柄であることを認識できるのではないかと考えました。

完成した作品(写真2)を眺めると、日韓両国の色彩が調和してまるで二組の家族がひとつ屋根の下で共生する「二世帯住宅」のような印象を受けると同時に、両国のあるべき姿が温かみある和紙の質感によって表現されるように感じました。

私個人としては、「絵画」という視覚的な手段を通じて国際交流(とりわけ日韓交流)を促進する手段をかねてより模索していたので、今回の共同ちぎり絵製作は大きな充実感を与えてくれる機会となりました。加えて、このような大規模な共同製作の場を設けることは個人の力だけでは到底なし難く、構想だけで頓挫する可能性が非常に高いという現実を鑑みると、やはり理想を形にするには多くの人々の協力が必要だということを改めて実感しました。

その意味で、今回の内閣府青年国際交流事業に参加できたことは私の理想を形にするための大きな一歩であり、アートで世界をつなぎたいという夢を実現するための着実な過程でした。これからも事後活動や社会活動などあらゆる機会を利用して、私の原点ともいえる絵画の可能性を追求していきたいと考えています。



写真1



写真2



作品を背景にくつろぐ青年たち



## 「出会えて良かったちゃ、ここ宮城で」

宮城大会副実行委員長

第13回「世界青年の船」事業参加青年

伊勢みゆき

平成17年11月19日～20日、日本三景松島で開催した「日本青年国際交流機構第21回全国大会宮城大会」に、全国よりたくさんの方にご参加いただき本当にありがとうございました。「全国大会って何?」という若手メンバーを中心に実行委員会を立ち上げ、約1年間かけて準備を進めてきました。その結果、大会参加総数262名。全国大会を何とか無事、大盛況のもとに終えることができました。

大会開催にあたり、宮城IYEOが心がけたのは「宮城らしい」温かい大会にすること。宮城に集い、味わい、語り、何か新しい発見をし、明日へつなげてほしい。何よりも宮城で「出会えて良かった」と感じていただける大会にしたい、という思いがそのまま大会テーマとなりました。

基調講演をしていただいた熊井かつ子先生(熊井クッキングアカデミー主宰)の元には、講演を依頼する前より実行委員が数名ずつ2か月に一度訪問し、先生の美味しいお料理を味わいながら、心と身体が元気になる栄養満点のお話をさせていただきました。私たちが励まし、活力を与えて下さいました。

5つの分科会の担当者は、全員がIYEO会員になったばかりのIYEO1～2年生。IYEOとは?全国大会とは?という研修会から始まりました。不安なことも多々あったようですが、それぞれが責任を持って交渉に当たったり何度もプランを考えたりし、どの分科会も内容が大変濃いものとなり参加して下さった方々からありがたいお言葉をいただきました。特に「利き酒」は、最後全員でスタンディングオベーション(立ち上がって拍手)だったとのこと。

懇親会は、「南東北の芸能」ということで、山形と福島の会員の方にご協力いただき、「花笠音頭」「会津白虎隊」を披露しました。飛び入りで熊井先生と田中南欧子会長による歌の披露あり、分科会に参加した留学生各国語での「幸せなら手をたたこう♪」の披露があり。最後の「すすめとれんど」による「仙台伝統芸能すすめ踊り」では、分科会参加者や会場の参加者も交え、会場が一体となり大変盛り上がりました。また、今大会の目玉でもあった「IYEO20周年記念日本酒」の頒布、北海道・東北ブロックの「オイシイ」ものが詰まった「福袋」の販売、毎年恒例の「全国物





産展」も大好評でした。

帰国報告会は、発表者をブロック全体から出し、事業ごとに行いました。

開会式からオブショナルツアーまでの全プログラムを通して、反省点も多々ありますが、ご参加下さった方々が「宮城に来て良かった」と感じていただけたら大変嬉しく思います。

最後に宮城大会開催にあたり、多大なる協力をして下さった北海道・東北ブロックの各会長と会員の皆様、(財)青少年国際交流推進センター職員、IYEO役員の皆様、講師の皆様、宮城IYEOの大先輩方、ご参加いただいた皆様、そして共に歩んできた実行委員、一人ひとりに心から御礼申し上げます。この大会を通じ、貴重な経験をさせていただいたこと、全国の皆様に出会えたことに感謝いたします。次回の香川大会でお会いしましょう!



● テーマ別分科会「レッツダンス雀!—仙台の伝統芸能・すずめ踊り」



● 宮城全国大会に多大の貢献をした実行委員



● テーマ別分科会「違ってももしろい!?—留学生と楽習!」

◆ 大会日程 ◆

第1日目・11月19日(土)

12:30~13:30	受付
13:30~14:00	開会式
14:00~15:30	基調講演 テーマ「世界は食ing (ショッキング) 一人を良くする食べものはなしー」 講師 料理研究家 熊井かつ子 氏
16:00~17:30	テーマ別分科会 ①「アフガニスタンの今—ベシャワール会における活動からの報告—」 ②「パラツィーノ伯爵・ドン・フィリッポ・フランシスコ支倉六右衛門」 —支倉常長の世界への挑戦 ③「集え、中堅若手!!IYEO事後活動自慢大会」 ④「違ってももしろい!?留学生と楽習!」 ⑤「あなたも酒ムリエ☆宮城の銘酒を楽しもう」 ⑥「レッツダンス雀!—伝統芸能 仙台すずめ踊り」
17:30~18:15	チェックイン及び休憩
18:15~18:30	写真撮影
18:30~20:30	懇親会

第2日目・11月20日(日)

~ 9:00	朝食及びチェックアウト
9:00~10:00	内閣府事業参加報告
10:00~10:30	閉会式
11:00~	地域理解研修 ①「松島湾クルージングと殻付きカキ詰め放題」 ②「石巻巡り・支倉常長ゆかりの地を訪ねて」 ③「湯ったり秋保温泉とドキドキけしの絵付け」

## 青少年国際交流事業事後活動全国代表者会議 推進委員会議

### 日本青年国際交流機構第42回全国推進会議

日時：平成17年11月18日(金)～11月19日(土)

開催地：宮城県松島町

内閣府、(財)青少年国際交流推進センター、日本青年国際交流機構の三者により、全国の代表者を招集して事後活動に関する上記会議が開催されました。まず内閣府から平成17年度青年国際交流事業の実施報告と今後の予定が説明され、さらに平成18年度の派遣青年募集についての方針が示されました。次に、(財)青少年国際交流推進センターから、

内閣府の委嘱事業及び財団の独自事業である「国際理解教育プログラム」(外国青年を学校に派遣し授業に貢献)の報告の後、「International Youth Exchange 2006」の作成方針が示され、各都道府県IYEOに執筆依頼をしました。

その後、議長及び議事録署名人が選任されて議事に入りました。主な内容は、以下のとおりです。今年度は、初めてIYEO表彰が実施されることになり、別表の9名の方々が決定し、表彰状及び記念品の授与については、全国大会及び各ブロック大会で行われることになりました。

#### 1. 日本青年国際交流機構第42回全国推進会議議事

議長：上杉九州ブロック幹事、富樫山形県会長  
議事録署名人：田中北信越ブロック幹事、更田鳥取県会長

- 第1号議案 日本青年国際交流機構上半期会計報告について
- 1.1 平成17年度上期の報告
  - 1.2 平成17年度補正予算案について
    - ・20周年記念寄付金については特別会計。別途、報告
- 第2号議案 表彰制度について(表彰者の報告含む)
- ・都道府県の推薦3名、幹事会からの推薦6名
- 2.1 来年度以降の運用について
- 第3号議案 災害募金について
- スマトラ島沖津波被害復興支援募金口座について(総額、使途、今後の対応)
- ・募金はタイとスリランカの事後活動組織へ。
- 3.1 大規模災害等への対応について

#### 2. 報告事項

##### (1) 20周年記念事業について

###### ① 記念事業について

グローバル・フォト・コンテスト(第1弾は入賞パネルを貸し出し中、第2弾はこれから募集、ホームページで紹介)

ターニングポイント(一部1,000円で頒布中)

IYEO CAFE(各都道府県IYEOで積極的に開催中)

韓国交流プログラム(社団法人釜山韓日文化交流協会「韓日友好の夕べ」11/4)

新入会員リーフレット(会員証を兼ねる。平成18年3月完成予定)

広報活動(徳島県IYEO作成の広報活動について)

##### ② 財政基盤、寄付金について

・平成17年11月14日現在、289名から3,486,136円の寄付。  
(平成18年2月4日現在、310名から3,742,136円の寄付)

##### (2) 都道府県青年国際交流機構の平成17年度上半期活動報告(10月末)及び予定

###### ① 平成17年度ブロック大会について

関東ブロック	茨城県	横のつながりを重視し、他の青年団体と連携し実施。
近畿ブロック	大阪府	事業報告とアイスブレイク、ディスカッションを中心に。
四国ブロック	愛媛県	地元の外国人とのつながりを重視。
中国ブロック	岡山県	参加費を安価にし参加しやすくし、研修を充実。
北信越ブロック	石川県	事後活動についてのディスカッションを中心に。
東海ブロック	静岡県	粘土細工による国際交流。お茶の博物館を訪問。
九州ブロック	大分県	
北海道・東北ブロック	宮城県	全国大会と同時に開催。

##### (3) IYEOホームページについて

- ・都道府県イベント紹介ページをリニューアル
- ・都道府県IYEOメールアドレス  
メールアドレスの恒久化とプライバシー保護を目的として、12月より各都道府県にメールアドレスを用意(登録した代表者へ転送)

##### ② 特徴のある都道府県IYEOの活動(東京、京都他)紹介

##### (4) 日本青年国際交流機構全国大会について

全国大会、持ち回りブロックローテーションの確認

##### (5) 都道府県役員研修について

研修のねらい：スキルアップとネットワークの確立

##### (6) 平成17年度上半期の国際的活動及び事業別活動報告

###### ① SWYAAの活動報告

ユニオン報告、世界青年の船プロモーションキット作成予定について

●左頁の続き

- ②第17回SSEAYPインターナショナル総会（ベトナム）についての報告  
来年はブルネイで開催予定(第18回)
- ③「東南アジア青年の船」既参加青年連携強化代表者会議（OBSC）
- ④韓国派遣OB会による「日韓交流連絡会議」について
- ⑤「中国派遣団同窓会」の活動について
- ⑥航空機派遣事業メールマガジンについて  
2005年8月に開始。現在228名登録
- ⑦「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業での提案内容

について  
今年度より規模縮小のため事後活動に焦点をあてている  
NPOマネジメントコース（新規）でハンドブックを作成  
\*議事終了後に、4分科会に分かれて意見交換

1. 各都道府県新役員のための相談所
2. 応募者及び新入会員（一般会員を含む）を増やす方法
3. 魅力ある事業（ブロック大会、全国大会を含む）の企画
4. 地域と海外を結ぶ活動（ルネッサンス事業よりの提案）

閉会の後にブロック別懇談（全国大会について）



■平成17年度被表彰者■

都道府県IYEO	名 前	参加事業
船と翼の会ふくしま	橋本 正子	第6回青年の船
栃木県青年国際交流機構	和久 和夫	第12回青年の船
福井県青友会	斎藤 清一郎	第16回青年の船
三重県青年国際交流機構	醍醐 良子	昭和58年海外派遣
京都府青年国際交流機構	藤山 滋	昭和38年海外派遣
兵庫県青年国際交流機構	高谷 敏	第5回青年の船
国際ネットワークしまね	青戸 裕司	第18回青年の船
愛媛県青年国際交流機構	山田 悦示	昭和53年海外派遣
福岡県青年国際交流機構	古賀 正隆	昭和37年海外派遣

■日本青年国際交流機構全国大会実施状況■

回数	開催日程・実施場所	大会テーマ	主な内容
第15回	平成11年度 1999.12.4(土)～5(日) 岐阜県	いまから ここから 真ん中から	フォーラム：記念講演「異文化コミュニケーション」 講 師：ベマ ギャルボ氏（岐阜女子大学教授）
第16回	平成12年度 2000.11.18(土)～19(日) 富山県	こら～れ 富山へ！ きとときの21世紀へ…	フォーラム：基調講演「創造的問題解決の手法」 講 師：永田丹了氏（富山県国際大学教授）
第17回	平成13年度 2001.8.4(土)～5(日) 山口県	おいでませ！元気のくに、山口へ ～みなちご一ちよって、みなええほ！	フォーラム：基調講演「Somewhere over the rainbow」 講 師：大泉博子氏（山口県副知事）
第18回	平成14年度 2002.11.23(土)～24(日) 神奈川県	あなたと世界の交差点 そんな…ヨコハマ物語	フォーラム：基調講演「国際交流のアクションプランとは」 ～小さな幸せを横浜から～ 講 師：吉村恭二氏（財）横浜市国際交流協会理事）
第19回	平成15年度 2003.11.7(土)～8(日) 兵庫県	兵庫から世界へ、未来へ、架け橋を！	フォーラム：基調講演「被災地に生まれた多文化共生の意識」 講 師：齋藤富雄氏（兵庫県副知事）
第20回	平成16年度 2004.11.6(土)～7(日) 佐賀県	佐賀から世界へ！ Step up And Go into Action in SAGA!!	フォーラム：基調講演「船乗りから見た国際交流」 講 師：速辺輝夫氏（にっぽん丸元船長）
第21回	平成17年度 2005.11.19(土)～20(日) 宮城県	味わい、語らい、飛び出せ未来へ ～出会えて良かったちゃ、ここ宮城で～	フォーラム：基調講演「世界は食ing(ショッキング) 一人を良くする食べものはなしー」 講 師：熊井かつ子氏（料理研究家）
第22回	平成18年度 2006.12.2(土)～3(日) 香川県	未 定	未 定

## 菊地喜正さん

昭和52年度「青年海外派遣」事業（短期第5回 中近東班）参加青年  
昭和60年度 国際青年年記念 第1回国際青年の村 参加青年  
平成6年度「国際青年育成交流」事業（ジョルダン） 団長



菊地さんは昭和52年度「青年海外派遣（短期第5回 中近東班）」に参加され、その後、企業勤務の傍ら、長年にわたって地元宮城県で「宮城県青年海外協力隊を支援する会」の活動に携わってこられました。平成6年度には「国際青年育成交流」事業（青年海外派遣）（ジョルダン）の団長も務められました。一般の青年が海外に出ることが考えられなかった時代に中東で過ごした日々は、その後の人生にどんな影響を与えたかなどをお話いただきました。

**昭和52年度「青年海外派遣」に応募されたきっかけを教えてください。**

18歳の時に宮城県社会教育課が所管する「青年教室」に入った。小学校の教室を借りて、放課後、さまざまな青少年活動を行っている団体だった。仙台市内には7つの青年教室があり、労働大臣賞を受賞するなど、地元でもリーダー的な存在だった。その頃は、

個人で何かをするより、こういった団体に所属して活動するのが当たり前だったので、私も知らないうちに会員になっていた。

青年教室の先輩で、総理府の海外派遣に参加した人がいた。昭和52年当時は、自由に海外に出られるような時代ではなかったので、国の事業で外国に行けるというのは大きな魅力だった。それに、いくら楽しかったという先輩の話聞いても、やはり自分で体験してみないと本当の良さはわからないだろうと思った。

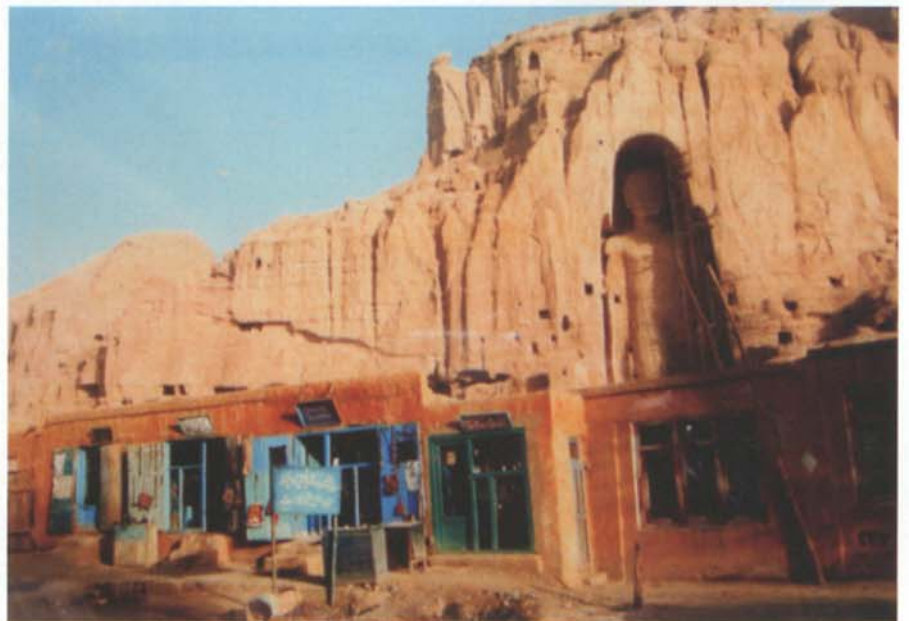
当時、私は洋食器の営業の仕事をしていた。仙台で2年半勤務し、その後、東京勤務になったが、土日も休みではなく、ただ仕事に追われる日々だった。

こんなだったらした人生をなんとなく送っていていいのだろうかという思いが強くなっていたので、会社を辞めて海外派遣の試験を受けることにした。

**試験に落ちてしまった**

実は、試験には絶対合格するだろうという自信があった。勤労青年で青少年活動に携わっている者を海外に派遣するという事になっていたので、自分は適任だと思っていた。地元宮城県での活動実績があったし、20歳の時には成人式の実行委員長もしていたから。

ところが、なぜか試験に落ちてしまった。語学試験の出来がよくなかったのかもしれない。合格すると確信して



パーミアンの遺跡

いたのに、不合格の通知が来て驚いたよ。会社も辞めていたし。

しばらくすると、県庁から連絡があって、短期の海外派遣の中東班に空きがあるので、行ってみませんかと声をかけていただき、参加することができた。

この団の構成は全部で17名、男女がだいたい半々ずつだった。勤労青年が対象の事業だったので、現在のように入学生は無く、自営業や会社員で休暇をとって参加している人もいたように記憶している。

### 訪問国ではどんなことが印象的でしたか。

パキスタン、アフガニスタン、イラン、クウェートを駆け足で回る旅だった。産油国と非産油国の間には著しい格差があった。当時は、訪問しても交流する青年があまりいない国もあった。交流というより視察を中心としたプログラムだったのもその理由だろうが、貧しい国では働かないと食べていけないので、子どもたちは幼いときから仕事をせざるを得ず、青年になっても交流どころではなかったのだろうと思う。子どもが朝から晩までじゅうたん工場で働いていたり、羊の世話をしていたりするような国もあった。

一方で、原油産出国の豊かさには驚いた。例えば、クウェートでは、砂漠の中に整備された道路が走っているし、海水を淡水に変える設備はあるし、採算を度外視して、トマトやレタスを栽培できるようなハウスが砂漠の真ん中にあった。お金があるからこそ、できることだなと思った。

日本とはまるで景色が違うのも驚き

だった。中東は色がないモノクロの世界だった。人々が着ているものも白と黒が多いように思ったし。アフガニスタンでは、山に木が一本もないのが印象的だったね。荒涼

としていた。パーミヤンの遺跡は今では破壊されてしまって残念だけれど、当時はちゃんと石仏が残っていたよ。でも、顔の部分は破壊されていた。パーミヤンはかつて仏教が栄えていた地域だったけれど、後にイスラムが入ってきて、偶像崇拜を禁止したため、仏像の顔をそぎ落としたとのことだった。

### ホームステイをされましたか？

ホームステイがなかったんだ。ホームビジットもなかったよ。事前研修の時にも説明があったのだけど、イスラム圏では男性を家庭に招くことはないと言われていた。ところが、私たちは日本政府からの派遣団だということで、信頼されていたようで、たまたまクウェートの政府高官の自宅に団員全員が招待してもらった。家族を紹介してくれて、部屋も見せてくれたよ。

### 帰国後の活動

帰国後は「青年会議」という団体に



政府高官とゲストハウスにて(クウェート)

所属するようになった。全部で17の組織(農業、林業、漁業、商工、国際交流、青年団等)が加盟していて、宮城IYEOも入っていた。この会で理事や役員として16年ほど活動してきた。この「青年会議」に所属している団体の中に「協力隊を支援する会」があり、理事と親しくなった。やがて、「協力隊を支援する会」の事務局長として来てくれないかという依頼を受けた。

「社団法人 協力隊を育てる会」は、民間の立場で国民に青年海外協力隊事業への理解を求め、協力隊事業に対する民間の支援の輪を広げることが目的として昭和51年に発足した。宮城では「協力隊を育てる」とはおこがましいのではないかと、という思いから「協力隊を支援する会」と呼んでいる。

当時「青年海外協力隊」はあまり知られていなかったため、認知度を高めるためにさまざまな活動を行った。例えば、県内の企業との懇談会を開いて、協力隊の活動に理解を深めてもらったりして、帰国した隊員が国内ですぐ

に仕事を見つけられるような下地を作った。県内の人を募って、宮城県出身の隊員が活動している国を訪問する活動も行い、これまでに20か国を訪問した。

このような活動は、すべてボランティアなので、訪問国は短期間で、かつ、安い費用で渡航できるところを選ぶようにしている。これまで訪問したのは、フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア、ミクロネシア、モンゴルなど。例えば、モンゴルやミクロネシアだと3泊4日で18万くらいを目安にして企画している。

事前に、現地の隊員と連絡をとって、支援物資の要請がないか確認している。インドネシアには中古のソフトボールを持って行ったし、モンゴルへは空手の道着のお下がりを県内から集めて届けた。途上国にこうした支援物資を持ち込む際に、関税がかかる場合があるので、中古品で行政機関に供与するものだから、無税で通してもらえよう事前に書類を整え、関係機関に話しておく。

ミクロネシアでは、訪問した際に、看

護師の隊員から血圧計の依頼があった。帰国後、日赤病院やその他関係者から中古の手動血圧計を15、6個いただき、現地へ送った。また、アフリカやスリランカへは、整備済みの放置自転車を仙台市から譲り受け、コンテナ一個分(90台)を船で送ったこともあった。

### 今でも52年度の派遣青年と交流されることがありますか。

あるよ。2年に1回、各県持ち回りで同窓会をしているから。今年は28年目になり、私が幹事となり、岡山で同窓会を実施した。東京で行くと、関西の人、特に、熊本と長崎の人が参加しにくいので、岡山で開催することになった。

同窓会では、みんなが話すことは毎回同じような内容なのだけど、それがかえって新鮮だったりする。おもしろいのは、集まると皆、すぐに派遣当時に戻れるということ。みんなが同じように歳をとっていくからね。30周年の同窓会は京都で行うことになっている。

### 海外派遣事業に参加したことは人生のターニングポイントになりましたか。

なったね。帰ってきて「青年会議」に参加し、事後活動をしたのが大きなターニングポイントだったように思う。ここから留学生や県内の青年とのネットワークができて、

「国際化」や「国際交流」というテーマでいろいろな事業を実施した。パネルディスカッションのパネラーを留学生に務めてもらったり、パネル展示をしたりして、様々な団体とのつながりができ、これが1つの啓発活動になった。

これは私にとっては1つのスタートだったのと思う。せっかく事業に参加しても、帰国して事後活動をしなければ、そこで終わりだよ。事後活動を続けていたからこそ、他団体との連携ができたし、その結果、いろいろな国を訪問することもできた。

もし、昭和52年に海外派遣事業に参加していなかったら、自分の人生はどうなっていたらと思うことがある。寂しい人生だったかもしれない。そういう意味では、これまでやってきたことに悔いはないし、これからも「協力隊を支援する会」の活動を続けていきたいと思っている。

～インタビューを終えて～

今回は、平成6年度「国際青年育成交流」事業(ジョルダン)でお世話になった我が団長を取材する機会となりました。ジョルダンでの日々を懐かしく語り合う場面もあり、楽しいひと時となりました。地域に根ざしたボランティア活動を安定して長年にわたって続けることの大切さをあらためて感じました。



モンゴル空手協会訪問

## 第1回「青年の船」「吉岡管理官を囲む会」

第1回「青年の船」事業参加青年 6班

木原 英三



いつまでもお元気の吉岡管理官

平成17年10月30日（日）、さわやかな秋晴れの神宮外苑、日本青年館に、80歳を超える高齢者から還暦目前の熟年者まで、昔の青年20余名が参集した。

集いの名称は——総理府第1回「青年の船」「吉岡管理官を囲む会」——である。

明治百年記念事業の一つとして、昭和43年1月から3月、52日間、東南アジア7カ国と沖縄を巡航した第1回「青年の船」の首都圏に住む仲間が、久しぶりに吉岡管理官を囲んで旧交を温めようとの趣旨の会である。

管理部からは、管理官をはじめ、栢原・桑原・中野・松本各氏が参加、男子団員では、栗林班長・和田助手他団員5名、女子団員では、細野・松隈・朝倉班長、高石・田中助手他団員9名が参加したが、参加者の中には噂を聞きつけ、大阪や仙台から駆けつけた人もいた。

第1回「青年の船」では、横山団長・橋本副団長は他界して久しく、教官の先生方もご高齢者が多く、今回はどなたも参加できなかったのは残念であった。

会は、午後1時から始まり、最初に吉岡管理官から、近況や今だからこそ話せる「青年の船」にまつわる貴重なエピソードなどを交えた挨拶をいただき、続いて、最年長の細野班長の乾杯で歓談が始められた。

その後、参加者全員から「青年の船」の思い出や近況が披露された。

仕事や家事から解放され、悠々自適で趣味の活動を楽しんでいる人、ボランティア活動を通じて社会貢献に励んでいる人、未だ現役で仕事に打ち込んでいる人等々、第1回「青年の船」の仲間は何年経っても「青年」の気持ちを忘れずに元気である感を、参加者一同感じたようだった。

また、2年後に控えた「40周年記念の集い」も話題にのぼり、東京で開催する方向で準備を進めることとなった。

最後に、「青年の船」の集いで恒例となっている「青年の船の歌」を、参加者全員が肩を組み合唱して散会した。



吉岡先生を囲んで（平成17年10月30日）



「青年の船」の歌の大合唱

## ◆◆◆◆◆ 事後活動組織による災害復興活動支援 ◆◆◆◆◆

マクロコズム vol.68 (2006年1月号) でお伝えしたように、「スマトラ島沖地震復興募金」で集められた寄付金がタイの「東南アジア青年の船」事後活動組織 (ASSEAY: Association of the Ship for Southeast Asian Youth of Thailand) と、スリランカの「世界青年の船」事後活動組織 (SWYAA Sri Lanka: The Ship for World Youth Alumni Association-Sri Lanka) へ US\$3,000ずつ渡されました。その後、タイから寄付金を使った復興支援活動の報告がありましたので、お知らせします。

### Report from ASSEAY (「東南アジア青年の船」タイ事後活動組織からの報告)

#### Water Tank Project for Morgans on Koh Lhao Island

Morgans is a group of sea people who live along the islands in Andaman Sea. They have different way of life, language and culture from majority of people in Thai society. They are known as "sea gypsies" or "sea nomads" in English.

Nowadays, most of the Morgans are living permanently on the island, not moving around very often like in the past. But they are still making a living from fishery as the same.

After the Tsunami Disaster on December 26, 2004, people started to know more about the Morgans. They have settled down on Koh Lhao in Ranong Province. There are 76 households and 400 people in the village with more than 100 are children.

When the Tsunami hit 6 southern provinces of Thailand, the Morgans were affected by this tidal wave. All of their fishing instruments were destroyed and disappeared into the sea. Unfortunately, they received no helps from the government, since they had no ID cards or other ones to guarantee that they are Thai citizens. So they were holding a hard time during that time.

Children Foundation came to help the Morgans, and found that their way of life was very low. Both of adults and children had lacked of nutrient and got the communicative disease (plague) very often.

The Morgans healed their health problem by themselves. They hardly had a chance to go to the hospital, due to lacking of money. The first project of the Children Foundation was "the Lunch for Children". Then, "Water Tank Project" which helps control the communicative diseases in the area was followed.

The Morgans are still getting used to leaving their sanity on the ground around the village. So the

#### ラオ島モーガン族のための貯水槽プロジェクト

モーガン族はアンダマン海の島に住む一族で、タイ社会の大部分の人とは違った生活様式、言語、文化を持っています。英語では海のジプシー、海の遊牧民と呼ばれています。

現在モーガン族は以前のようにあちこち移動せず島に定住しています。しかし、昔と同じように漁業で生計をたてています。

2004年12月26日の津波後、このモーガン族について知られるようになりました。彼らはラノン県のラオ島で生活しており、76世帯400名がその村に住んでいます。そのうち100人以上が子供です。

タイ南部の6つの県を津波が襲った時、モーガン族は高波の影響を受けました。漁業道具は破壊され海へ消えてしまいました。不幸にも、IDカードやタイ国民であることを証明するものがなかったため、政府の援助を受けられませんでした。

地元のNPOである「チルドレン・ファンデーション」がモーガン族の支援に乗り出したところ、彼らの生活レベルが非常に低いことが判明。大人も子供も栄養不良で伝染病にかかっていました。

モーガン族は、病気に関しては自分たちで何とかしていました。お金がないので、病院に行く機会ほとんどありませんでした。「チルドレン・ファンデーション」の最初のプロジェクトは「子どものためのランチ」で、その後、この地域の感染症防止のための貯水槽タンクプロジェクトを行いました。

モーガン族は現在でも、村のまわりで用を足しています。そのため、村民にあつという間に病気が広がってしまっています。

右頁へつづく



左頁のつづき

diseases are fast to spread to other people in the village.

**Objective**

To improve the Morgan's quality of life on Koh Lhao

**Target group**

All the Morgans on Koh Lhao

**目的**：ラオ島のモーガン族の生活の質の改善

**対象団体**：ラオ島のモーガン族

**予算**：61,136 バーツ (US\$1500) IYEOからの寄付金  
※事前調査費等はFund For Friend及びASSEAYが提供

**寄付金の用途について**

IYEOからのUS\$3,000はUS\$1,500ずつASSEAYメンバー2人の代表に渡され、津波による被害を受けた人々に役立てられました。

①Mr.Jakrapop Penkhae SSEAYP15既参加青年 (タイ政府首相府副事務総長：Deputy Secretary General of the Prime Minister Office) を通じてタイ政府へ

②Mr.Visit Dejkumtorn SSEAYP2既参加青年(ASSEAY参与、ファンド・フォー・フレンズ代表)を通じて津波の被災地ラオ島へ

Mr.Visitは以前からホープフル・チルドレン・プロジェクトに参加している団体チルドレン・ファンデーションと連携して、津波被害を受けたブーケット近隣の島の住民を対象としたプロジェクトを実施しました。このプログラムの主な協力者は次のとおりです。

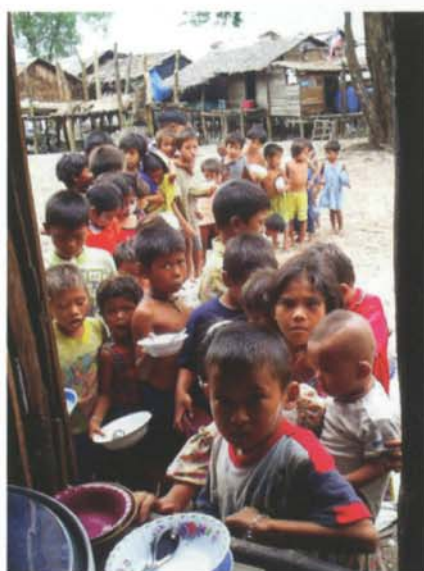
運営担当：Mr.Visit Dejkumtorn

建設担当：チルドレン・ファンデーションの教師Mam

アシスタント：SSEAYP31既参加青年Mr.Jakraphun Thanateeranon、及びASSEAYメンバー



▲IYEOの募金を渡すMr. Visit Dejkumtorn (右)



▲支給されるランチを受け取る子どもたち



**■ プロジェクト予算のまとめ (8 貯水槽の新築と4つの貯水槽の修理)**

No.	詳細	収入	支出
	IYEO/SWYAA Contribution (IYEOとSWYAAからの寄付)	61,136	
1.	貯水槽資材費		29,415
2.	ラオ島への資材運搬用ポートレンタル費 (800バーツ×5回)		4,000
3.	貯水槽設置のための地元での人件費 (1日一人あたり120-150/バーツ)		9,760
4.	海岸から貯水槽設置場所までの資材運搬を手伝う子供たちへの食費		3,761
5.	発電機代		14,200
	TOTAL (合計) 通貨はタイ・バーツ		61,136



▲ "Supported by IYEO" (IYEOからの援助)と書かれた貯水槽

## Seeds of Global Harmony の再会

第8回「世界青年の船」事業参加青年 出村 宣子

第8回「世界青年の船」事業参加青年 宮本 和味

平成18年1月7日から9日にかけて、第8回世界青年の船10周年記念同窓会が開かれました。この会は、5周年同窓会の幹事が中心となって1年前から準備して



オリンピックセンターでの集合写真

いたものでした。幹事のご助力もあり、1日目の（独）国立オリンピック記念青少年総合センターでのパーティには、総勢70名近くの参加と、盛大に行われました。参加者は、全国そして世界各地から集まりました。また、参加青年だけでなく、管理官、アドバイザーの先生方、にっぽん丸の齋藤徹郎キャプテン、そしてこの10年の間に家庭をもった参加青年の子ども達やパートナー達が集まりました。

パーティでは、団長だった上岡弘二先生の撮影された8回生の写真パネルが飾られ、料理がテーブルいっぱい並べられました。華やかに彩られた会場で、参加青年は久しぶりの再会で会話を楽しみ、参加青年同士の間にも生まれた子ども達は大人の傍らで愛らしい笑顔でしゃべっていました。会の中盤には、にっぽん丸をかたどったケーキの入刀が、子ども達と制服姿の齋藤キャプテンにより行われました。10年前の船の時間に戻ったかのような温かくなつかしい空気が、会場全体を包み込み、グループ全体のまとまりが、さながら大家族のようでした。とくに、催し物を用意していなかったのですが、3時間の会はあっという間に過ぎ、時間が過ぎても、まだ語りつくせない感じの参加者、会場を後にできない参加者が大勢いました。

そして、2日目の長野合宿には、20名近くが参加しました。朝、前日の余韻を残したまま参加青年気分で高速バスへ乗り込みました。バスの中では寄港地活動しながら隣同士で語り合い、笑い合い、外の景色を楽しみながら時間はあっという間に過ぎていきました。バスが白馬に到着し、ホテルへチェックインすると、夕食までは自由行動。スノーシューやスキーを楽しむ人、ホテル近くのそば屋で腹ごしらえをした後、部屋でおしゃべりしたり、温泉に入ったりと、それぞれの時間を楽しみました。そして待ちに待った夕食。食事が半分くらいきたところで、DVDに編集された当時のNPD(National Presentation Day)を見始めました。懐かしい顔、懐かしい歌を、体験してきたばかりの気持ちで見えていました。10年前に創り上げたNPDの素晴らしさとパワーに、今の私たちが元気をもらったような気がしました。客室へ移動してからは夜中まで語り合い、近況報告をし、また船に戻ったような気持ちで時間は過ぎていきました。最終日は長野オリンピックで使われたジャンプ台を見学し、想像以上に高い位置からの眺めにドキドキしました。そして午前11時にバスに乗り東京へ移動。少しずつ人数が減っていく寂しさ、心に満ち溢れた嬉しさとパワーを持ちながら東京で解散しました。

今回の10周年同窓会を通して、多くの参加者が、8回生の絆、それぞれのメンバーの活躍を感じ、同期のネットワークを維持していくことへの喜びや大切さを改めて感じていたように思います。そして、10周年が、私達グループのひとつの節目であるとともに、あらたなスタートの年とそれぞれが再認識した3日間でもありました。これを機に、交流をさらに深め、互いに刺激しあいながら、事後活動に積極的に関わっていく8回生でありたいと思います。なお、当時ニュースレター郵送費として集めた金額のうち5万円をIYEO20周年記念組織充実資金に寄付することを付記します。



特別に用意された「にっぽん丸」ケーキ

## The 18th SSEAYP International General Assembly in Brunei Darussalam

SSEAYPインターナショナル第18回総会(SIGA)が開催されます！

**日 程：**平成18年4月28日(金)～5月1日(月)  
**場 所：**ブルネイ・ダルサラーム (バンドル・スリ・  
ブガワン=首都)  
**テ - マ：**“SSEAYP for Peace and Unity”

6～12歳の子ども US\$80  
6歳未満の子ども 無料

**航 空 券：**ブルネイ・ダルサラームへの往復航空券は各  
各自用意ください。IYEOを通じて購入される  
場合は下記申込み先までご連絡ください。なお、  
ゴールデンウィークのため混雑が予想されます。  
航空券はお早めにお買い求めください。

### プログラム

4月28日 参加者到着  
4月29日 開会式、総会、ワークショップ、歓迎夕食会  
4月30日 市内見学、歓送夕食会  
5月1日 参加者帰国  
(5月1日以降、ご希望により、ホームステイやウル・トゥン  
ブロン国立公園へのオプションツアーのアレンジも可能です)

**申込み方法：**参加ご希望の方は詳細資料をIYEO事務局か  
らお取り寄せください。  
申込みは各同窓会を通して行われますので、個  
人でブルネイ・ダルサラームへ直接申し込まれ  
ませんようお願いいたします。

**参 加 費：**(プログラム中の食費、宿泊費、参加費が含ま  
れます。この他に、若干の事務経費が必要となります)  
早割価格 (4月7日まで) US\$170  
通常価格 US\$185



## Brunei Darussalam

### ～申込み及びお問い合わせ先～ 【IYEO SIGA係】

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14  
東京海苔会館6階

TEL : 03-3249-0767 FAX : 03-3639-2436  
E-mail : [siga@iyeo.or.jp](mailto:siga@iyeo.or.jp) 担当：渡辺・白鳥



\*写真は2005年にベトナムで実施された際のもので



## 平成17年度青少年国際理解セミナーのご案内

人口減少社会を生きるあなたへ～「ミレニアム開発目標」と日本

2006年3月21日(火・祝)

少子高齢化で人口減少に危機感を募らせる日本。一方で急激な人口増加を続け、その数64億人にまで膨れ上がる世界人口。この両者が直面している問題とは何か。そして国連・日本が取り組む対応策とは…。

「ミレニアム開発目標」を掲げ、貧富の格差を縮める活動を進める国連。その第一線で活躍の池上清子氏に、現場の状況を踏まえ、多角的に人口問題についてお話いただきます。

### <講師> 池上 清子氏

- ・国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所 所長
- ・第1回東南アジア青年の船参加青年

**<プロフィール>** 国連難民高等弁務官駐日事務所、国連本部、財団法人ジョイセフ(家族計画国際協力財団)、国際家族計画連盟 (IPPF) ロンドン本部などを経て、2002年9月より現職。内閣官房長官諮問機関アフガニスタンの女性支援に関する懇談会メンバー、東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会委員、ユニフェム(国連女性開発基金)日本国内委員会理事。国際基督教大学(ICU)大学院行政学研究科修了。行政学修士。

**主催:** 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)  
(財)青少年国際交流推進センター  
日本青年国際交流機構

**日時:** 2006年3月21日(火・祝)

**受付:** 13:00～

**開演:** 13:30～15:30

**会場:** 六本木ヒルズ内 六本木アカデミーヒルズ49階  
「オーデトリウム」日比谷線/六本木駅(C1出口)  
TEL:03-6406-6220

**締切:** 定員120名になり次第、締め切らせていただきます。

**参加費:** 1,000円

**申込方法:** 氏名・住所・電話番号・e-mail・「理解セミナー参加」と記載の上、下記にお申込みください。

FAX:03-3639-2436 e-mail: seminar@iyeo.or.jp

**お申込・お問合せ:** (財)青少年国際交流推進センター  
〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

TEL:03-3249-0767 FAX:03-3639-2436

e-mail: seminar@iyeo.or.jp



### 「有森裕子と読む人口問題ガイドブック」

出版社:国際開発ジャーナル社 定価1,260円

池上清子さん(国連人口基金東京事務所所長)と有森裕子さん(国連人口基金親善大使)が、自らの体験や思いをまじえながら、「人口問題」について率直に語り合う。人口問題を丸ごと理解できる入門書の決定版。

## ～讃岐まんでがん通信～

香川青年国際交流機構

井川 美紀

今回は、今年の全国大会開催地である琴平町の観光名所をご紹介します。

琴平町と聞いてもピンとこないかもしれませんが、「こんびらさん」はご存じの方も多いのではないのでしょうか？正式には金刀比羅宮(ことひらくう)と言い、コトヒラ(コンピラ)はインド仏教の守護神、クンピーラに語源があると言われていました。クンピーラはワニの化身で、日本では海上安全の神となったのだそうで、江戸時代から大変親しまれ、全国から大勢参拝にいられています。1,368段(御本宮まで785段)の石段はとも長いですが、はあはあ言いながら登り、本宮前から眺望する瀬戸内海は見事です。海の神様ですので、お越しの際は是非、世界船や東ア船に乗られる方の安全を祈願されてはいかがでしょうか？

また、こんびらさんの近くには、現存する芝居小屋の中では日本最古の「金丸座」があり、毎年春には「四国こんびら歌舞伎

大芝居」が開催されていて、有名な歌舞伎役者もやって来るため(今年は市川海老蔵が来るようです)、全国から歌舞伎ファンが集まります。歌舞伎役者にとって金丸座は、歌手にとっての武道館、高校球児にとっての甲子園のような(?)一度は立ちみたいと思う、憧れの舞台のようです。映画「写楽」や、最近では「阿修羅城の瞳」の撮影にも使われていますので、機会があればご覧になってみてください。

そして、12月には風情漂う門前町の琴平に、是非お越しください!



金刀比羅宮



旧金比羅大芝居(金丸座)

### 今月号の表紙

「小学校の教室 1クラス何人いるの?」

平成17年度「国際青年育成交流」

事業(ミャンマー)参加青年



### 編集後記

国際交流事業に参加してから10年、20年といった歳月を経たのちに、同窓会を開催し、皆で感激の再会をしたという話をマクロコズムでもよく取り上げるようになりました。参加者の皆さんが異口同音におっしゃるのは、「何年経っても雰囲気は当時のまま!」ということです。すてきな同窓会情報があればぜひお知らせください。お待ちしております。(ふ)

## MACROCOSM 3月号 Vol.69

2006年3月1日発行(隔月発行)

編集 マクロコズム編集委員会

発行 財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋

人形町2-35-14 東京海苔会館6階

TEL 03-3249-0767 FAX 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centerye.org>

(CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp> (IYEO)

編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

日本青年国際交流機構(IYEO)

定価 198円(本体189円)

印刷所 柏木印刷株式会社

TEL:03-5395-3954 FAX:03-5395-8213

笑顔を通して、人の心をつなぐ  
ブリッジになりたい。

にっぽん丸ホテルサービスグループ クリステイナ・エ・サンズ



since  
**1884**  
Pioneer Of  
Cruise



USPH=米国公衆衛生局は米国に入港する客船に対して毎年検査打ちで衛生検査を実施しています。にっぽん丸は、2000年から3回連続して100年満点中99点を取るなど、日本船では最高の評価を5年半の間受け続けています。



冒険する生活  
**にっぽん丸**

“A hard day's night”ここでの仕事を、ビートルズの歌を借りて表現したクリスティ。

にっぽん丸に乗って12年、フィリピンクルー唯一の女性リーダーだ。「朝から夜まで、とても忙しいです…」と言いつつも、彼女の顔から笑顔が消えることはない。

「笑顔でいることは、私のプライド。どんなに忙しくても、にっぽん丸で働けることは、すごく名誉なこと。

だからフィリピンクルーはいつも笑顔です」。言葉の壁や習慣の違い、

きっと、さまざまな事があつたであろうこれまでの年月を問いかけても、彼女の口からは泣き言ひとつ出てこない。

「にっぽん丸は小さなソサエティ、街と一緒にいます。そしてこの街には、いろいろな人が住んでいます。

優しい人、怖い人、明るい人、まじめな人、そしてフィリピン人と日本人。いつでもみんなが仲良くできればいい。

そのためには笑顔が大切。笑顔は、心をつなぐブリッジだから…」。

この日、にっぽん丸は韓国釜山港へ入港した。しかし、船の中では国境を越えた暮らしが営まれている。

お客さまとクリスティの笑顔と共に。



## もてなしにも、品質があります。にっぽん丸の船旅

### 鳥島周遊アホウドリ・ウォッチングクルーズ

横浜→(鳥島周遊)→横浜  
2006年3月26日(日)～3月28日(火) **82,000円**

### 2006年世界一周クルーズ

横浜・神戸発着(各101日間)19ヶ国25港  
2006年4月6日(木)～7月16日(日) **2,900,000円**

### 東北夏祭りクルーズ

横浜→秋田→青森→横浜  
2006年8月2日(水)～8月7日(月) **245,000円**

### にっぽん丸 春クルーズ

横浜→屋久島→宿毛→広島→鳥羽→横浜  
2006年3月28日(火)～4月4日(火) **298,000円**

### 八丈島クルーズ **名古屋発着**

名古屋→八丈島→名古屋  
2006年7月19日(水)～7月21日(金) **90,000円**

### プラチナ エンターテイメント クルーズ **神戸発着**

神戸→長崎→神戸  
2006年9月15日(金)～9月18日(月・祝) **170,000円**

そのほかのクルーズもご用意しております。表示の代金はステートルームC1室を2名でご利用の場合の大人お一人様・国内クルーズは消費税込の旅行代金です。



**商船三井客船**

MOPASは商船三井客船の登録です。 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三井ビル5F

お問い合わせは、各クルーズ取扱旅行会社またはMOPASクルーズデスクへ。

クルーズデスクフリーダイヤル

☎0120-791-211

<http://www.mopas.co.jp>



# TOPTOUR

～この青い鳥が私たちの新しいシンボルマークです～

私たちが目指すのは「旅」の視点から、人々の明るい生活を創出する  
《旅行インテリジェンス企業》です。

ご家族旅行、グループ・団体旅行、教育旅行、エコツアーから  
会議、研修、各種大会・イベント、出張まで  
皆さまの「大切な時間」を国内・海外合わせ100カ所を超える  
ネットワークでサポートいたします。

皆様と共に歩んだ50年、そして皆様と共に飛び立つ新しい未来に向かって・・・  
「トップツアー株式会社」は常に一歩先を求めて飛び立ちます。



The 50th Anniversary



東急観光は「トップツアー」へ

## トップツアー株式会社

国土交通大臣登録旅行業第38号 日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員

〒153-8550 東京都目黒区東山3-8-1 <http://www.toptour.co.jp>

お問合せ先 03-5704-3750 (総務部)

総務部より全国の支店の中から担当支店をご案内いたします